

緘黙傾向児のいるクラスでの人間関係

～周りの児童の働きかけに注目して～

○竹田 健太郎 (上越教育大学教職大学院)
西川 純 (上越教育大学教職大学院)
(j285627a@myjuen.jp)

要約

本研究の目的は、緘黙傾向児の授業での関わりや発話と遊びの中の関わりや発話を分析することで、クラスの中で緘黙傾向児がどのような人間関係を築いているのかを明らかにするものである。公立小学校の三年生の緘黙傾向児を対象に IC レコーダー、ビデオカメラを用いての授業、遊びの内容記録、分析を実施した。その結果、緘黙傾向児はクラスで受容されており、不都合なく周りと付き合えていることが分かった。

キーワード：気になる子 緘黙傾向児 人間関係 小学校

I 問題の所在

場面緘黙（選択性緘黙、以下場面緘黙とする）の有病率は 1%以下と DSM-IV-TR(2002)¹⁾では示している。つまり、中規模校では学校に 1 人の割合で存在している。非常にまれな症状であるため、あまり認知されておらず、研究自体も少ない現状がある²⁾。

河井ら(1994)³⁾は場面緘黙症の定義として、「特定の場面や状況におかれたときに話さなくなることから、このような緘黙を場面緘黙、あるいは選択性緘黙という」としている。青柳・丹(2015)⁴⁾は、これまでの場面緘黙の研究動向から、緘黙傾向児の実態を把握する研究を行っている⁵⁾。

現在場面緘黙における治療法の例はいくつかある。松村(1998)⁶⁾は、セラピストと場面緘黙児の活動に担任や親しい児童を次第に増やしていく、人間関係を用いたフェーディング法を行い、その有効性を示している。河井ら(1994)⁶⁾は、遊戯療法、正強化法、手続き法、モデリング法などを挙げている。これらの治療法には、外部からの刺激や介入が伴っている。

2007 年度の独立行政法人国立特別支援教育総

合研究所の調査によると、小学校における、選択性場面緘黙及び神経性習癖の割合は、131 人で全体の 1.3%であった。しかし、この中には診断名がついていないものもあり、調査全体の 15.8%は診断されていない、教員が児童の状態像から想定し、回答したケースであった⁷⁾。

現状で診断がなされている児童に対し現場の教員が治療を行うためには、専門的な知識の習得や授業時間外に治療を行わなくてはならない等、教員の負担の増加を招くため、困難であるといえる。

場面緘黙の診断がなされている児童の実態を把握した研究や支援、治療についての研究はあるが、診断がなされておらず、緘黙傾向のある児童と周りの児童との人間関係について詳細に検討されたもの見当たらない。

II 研究目的

本研究の目的は、診断をされていない緘黙傾向児の人間関係の実態を明らかにし、周りの児童がどのような関わりによって関係を築いているか、その要素を明らかにする。

Ⅲ 研究方法

1 調査対象

新潟県 J 市立 T 小学校 3 年生

抽出時 1 人：緘黙傾向があり、教員やクラスの全員の前で話すことができない。

緘黙傾向児とその児童と関わりを持った児童を中心に調査する。

2 調査期間

平成 28 年 11 月～12 月

授業時間：4 時間分

遊びの時間：20 分休み 2 回分 (20 分)

昼休み 2 回分 (40 分)

3 調査内容

- ・ IC レコーダーによる発話・会話の記録
授業時間と休み時間などの遊びの中での記録をとる。
- ・ ビデオカメラでの授業の記録
授業時に教室の前方後方に 1 台ずつビデオカメラを設置し、記録する。

4 分析方法

・ 緘黙傾向児の IC レコーダーから、授業または遊びの場面でどのような会話や発話が行われているかプロトコル分析を行う。分析の方法としては、小日向 (2006)⁸⁾ (相互的会話、受け入れの会話、一方的会話、非難的会話、無視、注意、独り言、その他) に準拠する。

小日向 (2006) によるカテゴリー分け

相互的会話	調査対象生徒が、聞き手 (生徒・授業者・担任・筆者を含める) に話しかけたり、話しかけられたりすることをきっかけとして、教えてあげたり、教えてもらったりといったやりとりがみられる場合。
受け入れの会話	調査対象生徒が話しかけたときに、聞き手 (生徒・授業者・担任・筆者を含める) が、それに対して返答は短くも、返答している場合。
一方的会話	調査対象生徒が、聞き手 (生徒・授業者・担任・筆者を含める) に話しているとき、聞き手が調査対象生徒の話していることを理解する如何に関わらず、調査対象生徒が一方的に話している場合。
非難的会話	調査対象生徒が、聞き手 (生徒・授業者・担任・筆者を含める) に対し、非難的な言葉を発した場合。(うるさい、もういいよ等)
無視	調査対象生徒が、聞き手 (生徒・授業者・担任・筆者を含める) に話しかけても、そのまま違う場所に移動してしまったり、見ているもその発言に答えなかったりする場合。
注意	調査対象生徒が、生徒ないし教師、筆者に注意されている場合。
独り言	調査対象生徒の目の前に人がいなかったり、誰かに伝えようとしているような発言ではなかったりする場合。
その他	IC レコーダーに録音されている調査対象生徒の声が聞き取れなかったり、上記の会話のカテゴリーに当てはまらない場合。

・ ビデオカメラの映像から、緘黙傾向児が授業に取り組む様子を見て、周りの児童との関わりはあるか、関わりがある場合にはどのような会話をしているのかを IC レコーダーと合わせながら分析する。

Ⅳ 結果及び考察

クラスの児童は緘黙傾向児の特徴を知っていた。クラス集団として見た時にはひとりではなく、必ず誰かとつながっていることが明らかとなった。

※詳細については当日発表する。

Ⅴ 引用・参考文献

- 1) 高橋三郎・大野裕・染谷俊幸：『DSM-IV-TR 精神疾患の分類と診断の手引き 新訂版』, P 70, 2003.
- 2) 日本緘黙研究会：
<http://mutism.jp/about-sm/> .
- 3) 河井芳文・河井英子：
『緘黙傾向児の心理と指導-担任と父母の協力のために』, 1994.
- 4) 青柳宏亮・丹明彦：『選択性緘黙に関する研究動向：臨床的概念の変遷を踏まえて』, 2015.
- 5) 松村茂治：『クラスの中の場面緘黙-緘黙児とクラスの子どもたちのふれあい-』, 東京学芸大学教育学部付属教育実践総合センター研究紀要, 第 22 集, P 75-91, 1998.
- 6) 同上書 3), P 154-155.
- 7) 独立行政法人 国立特別支援教育総合研究所：「小・中学校における自閉症・情緒障害等の児童生徒の実態把握と教育的支援に関する研究 -情緒障害特別支援学級の実態調査及び自閉症, 情緒障害, LD, ADHD 通級指導教室の実態調査から- 研究報告書」, 2008.
- 8) 小日向文人：「長期観察による軽度発達障害児と学び合いの授業の研究」, 上越教育大学大学院修士論文, 2006.